

企画展

一枚の海苔簀が できるまで

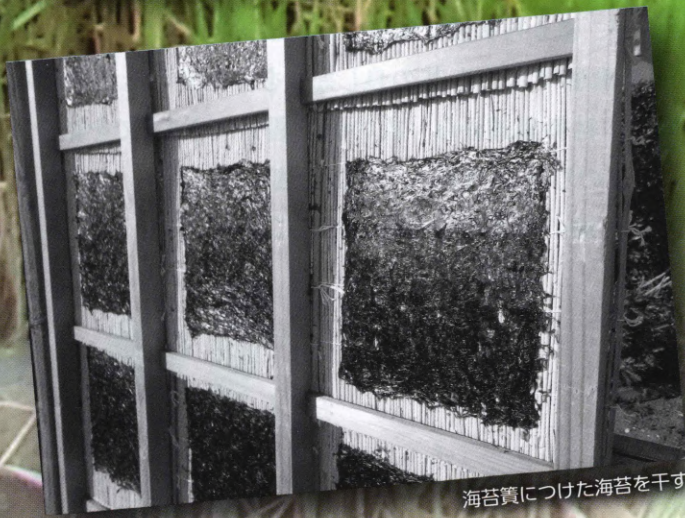
— 海苔づくりを支えた道具たち —



昭和30年代 海苔簀編み



昭和30年代 ヨシ刈り



海苔簀につけた海苔を干す

令和2年8月18日(火)～11月15日(日)

開館時間：9：00～17：00(8月は19：00まで)

休館日：9月23日(水)、10月19日(月)

おおもりのり
大森 海苔のふるさと館

143-0005 東京都大田区平和の森公園2番2号
電話：03-5471-0333 FAX：03-5471-0347
<https://www.norimuseum.com/>

入館
無料



昔と同じ方法で行っている「海苔簀づくり」体験の材料準備



海苔簀と簀編み台



オシギリ

海苔簀づくり

昔ながらの方法で一人一枚海苔簀を編みます。
 日時 9月13日(日)、10月11日(日) 13:30~16:00
 対象 小学3年生以上
 定員 各回先着10名
 参加費 無料
 申込み 8月21日(金)9:00から電話にて受付

今後の状況により、変更または中止になる場合もあります。

企画展

一枚の海苔簀ができるまで — 海苔づくりを支えた道具たち —

大田区で海苔生産をしていたころは、生産者自らが道具の多くを手作りしていて、海苔簀もその一つでした。海苔簀は海苔を付けて乾燥させるための簀のことで、一日4~5,000枚の乾海苔を生産する家であれば、10,000枚以上は準備しておきました。海苔簀は毎年そのうちの三分の一ずつ新調したのです。

海苔簀の主な材料は河原に自生する葦で、7月20日過ぎからヨシ刈り、揃える作業、ヨシ干し、葉落とし、選別の作業などが続きました。海での作業が始まる晩秋まで、毎日家族総出で夜なべをして数千枚の海苔簀を編みました。海苔は冬の仕事として知られますが、夏から準備は始まっていたのです。

今回の企画展では、海苔の良し悪しを支えていた海苔簀に焦点を当て、材料調達から一枚の海苔簀ができるまでを紹介いたします。かつての写真や道具と、ふるさと館で毎年行っている「海苔簀づくり」体験の準備作業を合わせてご覧ください。

交通案内

〈京急〉平和島駅から徒歩15分
 〈東京モノレール〉流通センター駅から徒歩15分
 〈JR〉大森駅から平和島循環バスで「平和島五丁目」下車、徒歩3分
 〈駐車場〉30分100円



おもしろのり 大森 海苔のふるさと館

143-0005 東京都大田区平和の森公園2番2号
 電話:03-5471-0333 FAX:03-5471-0347
<https://www.norimuseum.com/>

